

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	讀後の感を：選後評
Author(s)	門前，眞一
Citation	龍南， 2 2 9： 1 0 7 - 1 0 8
Issue date	1934-11-25
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/7229
Right	

る。主人公の心理の運びもジョイス的で結構、但し用語に生硬な部分があり、全体がだら／＼としまりのないのが欠点。

「重大な家出」取扱ひ方が拙い。全体をもつとひきしめねばならぬ。

讀後の感を

教授 門前眞一

神や人間や惡魔のあらゆる境涯を描いて迫眞の技術を發揮し得るのは大文豪のことであつて、普通の人間の場合には未婚者が經驗のない既婚者の生活を單なる空想だけで書くのは困難であつて、それは不確實な概念的なものになり易い。所が集まつた原稿の中には既婚者の生活を取扱つたり、大學生の事を書いたり、株に手を出したり妾を蓄へたりする商人や、或ひは有閑マダムやその娘の事を書いた原稿が多い。

「緑の寂寥」がそれらの中で特に手法が拙劣である。「お嬢さん」は叙述の爲方に芝居が多く全体の味が濃厚になり

すぎてゐる。もつと簡素な澄んだ筆致を學ぶべきである。

「重大なる家出」「青年」には若い主人公のほかに破産した家庭の事とか、株に手を出し失敗した商人の生活とかが副材として配合してあるが、この部分に前述の弱點が存するやうに思ふ。「重大なる家出」は文章も少し投げやりの粗笨さがあるやうだ。「はるかなるもの」は文章が達者なのに、内容はどうかうロマンティックな甘いものを書くのだらう。諸君が小説の習作を書かうといふなら美男美女の出て來る通俗小説のやうなものを御手本にせずに、一通り明治の自然主義の代表作家の諸作を讀んで寫實主義の精神の洗禮を受けて、それから後に出發して戴きたいと思ふ。「創傷」は文學青年好みのスタイルの小説で相當に書けてゐると思ふ。しかしあまりに力のない生活を取扱つてゐる。「家庭」は筆が達者で体裁も整ひある、完成を示してゐる。しかしながら全体からある柔かさ、溫かさが感じられず、個性味が乏しく味の無い冷い感じを受けるのはどうした事であらう。今少し情熱が欲しい。「家庭」は最初二枚位の書出しを讀んだ時、なんだこんなものといふ感じがした。所が讀んで見るとなか／＼さうではない。可成り暗

い生活を描いてゐながらとげ／＼したところジメ／＼した感じがなくて、あるゆとりがある。かうした身近い題材を何等手法を弄せず描いてある味はひの出てゐるのに感心した。未完の作であるがスケッチ風のものとすればこれで一應まとまつてゐる。「水」はやはり早魃の農村の實際生活を書いたもので、他の作品の様に見られない現實味が豊かで素材としては心が惹かれたが、觀照の態度や文章がもう少し達者だつたらと惜しく思ふ。以上、藤村の「千曲川のスケッチ」を昔愛好した者の言葉である。

(一九三四、一一、五)

批評に代へて

敎授 渡邊 格 司

龍南の文藝が盛であるやうに聞いて居りましたが、本年の應募作品を拜見して必ずしもすつかり感心した譯ではありませんでした。幼稚なといふ感想もなかつたのですが、作者である「人」が顔を出したり引込めたりして統一がなかつたり、言葉が嫌味な生硬なものだつたり、用語の不統

一といふケレンがあつたり、お芽出度の解釋、小説に對する出鱈目な態度が見えたり、冗漫きはまる無用の長物の描寫があつて作品を損じたり、兎に角一應全部を讀み終つてからの感想は、正直なところ、あまり感心しなかつたのでした。

然し惡口ばかり言はれるのを甘受するやうな諸君ではないと思ひますが、何れを拜見しても傑作ぞろひで選ぶのに困難しました、などゝ御世辭を言はれたつて嬉しがるやうなお芽出度の人も居ないでせうから、極く普通に批評の様な言葉をつらねて置いて、一應は讀んで考へたといふ私の勞力の證據をお目にかけませう。然し世の中には生眞面目な人も居りますから、生徒の血と汗の結晶を茶化すとは怪しからん、と私に怒鳴つてくる人もあるかも知れません。そういう人があるかもしれないといふ蓋然性に對して迄私は武裝をしなければならぬでせうか。

兎にも角にも小説修業の道にいそしむならば、もう少し近代及び現代の作家の作品を讀んで見ることです。またそういう作品の批評にも耳を藉することです。自己の見解で簡単に片づけていゝ氣になつてゐるのは見苦しいのですか